

朝鮮通信使と長浜

～通信使来日を支えた人々～

豊臣秀吉による文禄・慶長の役によって日本と朝鮮との国交は断絶しますが、慶長12年(1607)、江戸幕府の命を受けた対馬藩の尽力により、国交が回復、途絶えていた朝鮮通信使の来日が再開されました。

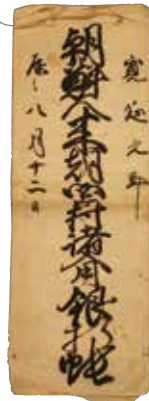
朝鮮通信使は、漢城(現ソウル)を出発し、海路を経て京都へ上陸、中山道から朝鮮人街道を通して美濃路へと進んだため、長浜へは訪れていません。しかし、大津や近江八幡、彦根などで通信使を迎えるにあたり、人足や諸税が湖北の村々にも課せられていたことが各村に残る資料からわかっています。

さらに、湖北には、高月町雨森出身と伝わる対馬藩の儒学者・雨森芳洲あめのもりほうしゅうや高月町井口出身で膳所藩に仕えた松井原泉まついげんせん、彦根藩士岡本半介など朝鮮通信使と交流のあった人物もいます。

本展覧会では、華やかな国際交流の裏で朝鮮通信使の来日を支えた人々に焦点を当て、村々に伝わる古文書や雨森芳洲関係資料などをおして、朝鮮通信使と長浜の関わりを読み解きます。



朝鮮通信使詩巻 1巻 寛延元年(1748)



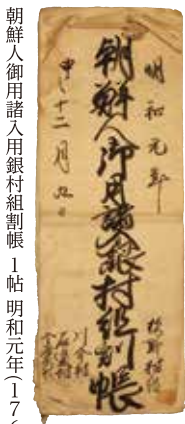
朝鮮人來朝四ヶ村諸入用銀控帳 1帖 寛延元年(1748)



李東郭七律 1幅 正徳元年(1711)



彦根藩岡本半介書「任統謝詩並岡本半介唱酬詩」1幅 寛永13年(1636)頃



朝鮮人御用諸入用銀村組割帳 1帖 明和元年(1764)



朝鮮人国役割賦廻状 1帖 江戸後期



松井東嶺筆録 1帖 宝暦14年(1764)頃



朝鮮人來聘大津駅記 1帖 寛延元年(1748)

主な展示資料

- | | | | |
|-------------------------|----|------------------|--------------|
| ◎朝鮮国礼書参判書契 | 1通 | 崇禎9年(寛永13年、1636) | 一般財団法人布施美術館蔵 |
| ◎朝鮮人來朝御入用人馬賃請取状 | 1通 | 明和元年(1764) | 高月町柏原自治会蔵 |
| ◎羽柴秀吉判物 もりもと大夫宛 | 1巻 | 安土桃山時代 | 高月町森本自治会蔵 |
| ◎朝鮮人御入用免許之儀二付申上書 | 1通 | 文化5年(1808) | 高月町森本自治会蔵 |
| ◎朝鮮人來聘大津駅記 | 1帖 | 寛延元年(1748) | 個人蔵 |
| ◎朝鮮人來朝四ヶ村諸入用銀控帳 | 1帖 | 寛延元年(1748) | 木之本町杉野自治会蔵 |
| ◎朝鮮人帰国諸役掛り物高付 | 1通 | 天和2年(1682) | 長浜城歴史博物館蔵 |
| ◎朝鮮通信使詩巻 | 1巻 | 寛延元年(1748) | 本館蔵 |
| ◎彦根藩岡本半介書「任統謝詩並岡本半介唱酬詩」 | 1幅 | 寛永13年(1636)頃 | 個人蔵 |